

六 宝永二年一月、九月

(表紙)
「宝永二乙酉年

万覚牒

正月一日、同九月廿二日迄

土屋治郎左衛門

宝永二乙酉年

正月一日

同二日

同三日

同四日

同五日

一 申年之御取ケ大分下り候間加免可被仰付旨再三御吟味ニ候得共、
廻米等大分被仰付故御取ケ難増旨每度被仰上候ニ付、最前御渡被
成候免状之通御取ケ相究候□難有可奉存旨、組下庄屋・百姓へ可
被申渡候、廻米之義段々米拵・俵拵仕立、来二月初廻米役人指凶
次第無滞津出仕候様ニ能々可被申渡候、已上

正月四日

宮田幾右衛門印

山本沢右衛門印

斎藤久野右衛門印

杉山織右衛門印

前谷村
次郎左衛門殿

一来酉年宗門改帖・名寄役割帖我等共ニ相改可申旨被仰付候、今年
宗門帖指出し延引ニ付御用之妨ニ罷成候、組下村々へ嚴被申付、
右帖面共二月中仕立判形取之、三月限可被指出候、為其年内申
遣候

十二月廿五日

内田半兵衛印

前谷村

大庄屋二郎左衛門殿

一 宮谷村庄左衛門・庄右衛門右兩人召連、早々罷越候様ニ庄屋義兵
衛ニ可被申渡候、以上

正月四日

杉山織右衛門印

前谷村大庄屋
二郎左衛門殿

右三通之御配符後山村村次ニ而参候

正月六日

一 権右衛門金津彦右衛門様へ年始ニ遣□、年玉物者御受納無之候
(大宮茂富・福井藩金津奉行) (候)

同七日

一 右御加免無之事、当御廻米之事、宗旨御改帖之下帖、当月中指出
シ可被申候、清帖書申候義者村々勝手ニ早々仕立可被申候、諸遣
帖者来ル二月中ニ仕立指出し可被申候、当御年名寄帖者三月中ニ
指出可被申候と、村々庄屋中呼寄堅申渡し候

一 笹岡村武兵衛何之御断も不申上年内江戸参候ニ付、武兵衛倅二郎

兵衛并一門彦三郎・善兵衛、庄屋長百姓口書取申候

同八日

同九日

へハ、江戸御屋敷へ指上候訴状之写有之候ハ、指上候様ニと被仰候ニ付、宿ニハ残置候得共是ハ無御座候由申上候へハ、宿ニ有之候ハ、写候而重而持参仕候様ニと其段口上書御取被遊、昨日罷歸候由申来り候

一右御加免無之二付、組中惣代為御礼と十楽村与三右衛門・井江葎村長左衛門・宮谷村義兵衛此三人を召連、権右衛門鯖江へ参候

同十一日

一右笹岡村二郎兵衛(口カ)書沢右衛門様へ指上候様ニと、鯖江へ権右衛門持口申候、留書有

一宮谷村義兵衛・井江葎村長左衛門・十楽村与三右衛門并権右衛門共ニ、鯖江ニ而御礼相済罷歸り候

同十日

一笹岡村武兵衛江戸カ昨九日ニ罷歸候と申来り候ニ付様子相尋候処、

一宮谷村庄左衛門・庄右衛門ハ牢破与次右衛門を只今カ二月中方々相尋可申候、其内ニ尋付不申候ハ、三月朔日ニ御役所へ其段御断可申上候由被仰付候

去十一月晦日笹岡村を罷出、倅三助召連江戸へ罷立、十二月十五日江戸京橋老町目やね屋(マ)裏店倅孫兵衛宿迄参着仕、同十六日

同十二日

ニ殿様御屋敷へ参、前谷村と拙者持高之義ニ付出入御座候ニ付、当秋数度御役所へ罷出御訴申上候処、殿様越前ニ御逗留之内ハ

一銀貳拾四匁四分 十楽村与三右衛門
一銀貳拾九匁五分五厘 井江葎長左衛門

御取込ニ而出入御聞難被成候、御立之後ニ罷出候様ニと被仰付候ニ付、十一月廿二日ニ又御役所へ罷出候へハ織右衛門様被仰渡候

一銀三拾四匁八分 宮谷村義兵衛
一銀貳匁 権右衛門

ハ、此出入之義御取上ケ被成間敷と被仰付候ニ付、是迄参候段々申上候へハ訴状も御請取被下、其外出入之段々口事御取被遊、十

一銀九拾匁七分五厘 茶壺斤代

九日に早々越前へ可罷歸候、御役所ニ出入御聞可被下之由被仰付候ニ付、倅三助ハかせきのため江戸ニ指残、拙者壱人廿一日ニ江

正月十三日

戸を罷立、一昨八日ニ御役所迄罷着、江戸ニ而之段々委細申上候

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

覚

前谷村

本石拾九石五斗式升式合
一米五拾壹俵

一銀五拾貳匁壹分九厘

内 四拾八匁八分

内 三匁九分□厘

笹岡村

本石百三拾三石式斗六合
一米三百四拾八俵

一銀三百三拾三匁二厘

内 三百九匁四分三厘

内 貳拾三匁五分九厘

宮谷村

本石百六石七斗九升四合
一米貳百七拾九俵

一銀貳百七拾七匁七分四厘

内 貳百六拾六匁九分八厘

内 拾匁七分六厘

青野木村

本石百四拾石八斗六升壹合
一米三百六拾八俵

一銀三百五拾貳匁三分

内 三百五拾貳匁壹分五厘

内 壹分五厘

内 八厘

四厘

三厘

清王村
本石三拾五石式斗壹升五合
一米九拾貳俵

一銀九拾三匁貳分

内 八拾八匁四厘

内 五匁壹分六厘

西方寺村

本石四石五斗九升□合
一米拾貳俵

一銀拾貳匁壹分貳厘

内 拾壹匁四分八厘

内 六分四厘

赤尾村

戻銀

酉廻米入用当

可相渡分

戻銀

酉廻米入用当

可相渡分

弥次兵衛

五十郎

権兵衛

戻銀

酉廻米入用当

可相渡分

戻銀

酉廻米入用当

可相渡分

本石五拾四石七斗二升七合
一米百四拾三俵

一銀百三拾六匁八分四厘

酉廻米入用当

内百三拾壹匁四分壹厘

申廻米入用戻銀

残五匁四分三厘

可取立

牛山村

本石四拾壹石七斗貳升貳合
一米百九俵

一銀百八匁壹分壹厘

戻銀

内百四匁三分

酉廻米入用当

内三匁八分壹厘

可相渡分

横垣村

本石拾九石五斗貳升貳合
一米五拾壹俵

一銀四拾八匁八分壹厘

酉廻米入用当

内四拾五匁六分七厘

申廻米入用戻銀

残三匁壹分四厘

可取立

井江葎村

本石百五拾壹石九斗六升貳合
一米三百九拾七俵

一銀三百七拾九匁九分壹厘

酉廻米入用当

内三百六拾壹匁六分貳厘

申廻米入用戻銀

残拾八匁貳分九厘

可取立

国影村

本石七拾五石四斗七合
一米百九拾七俵

一銀貳百匁三分八厘

戻銀

内百八拾八匁五分貳厘

酉廻米入用当

内拾壹匁八分六厘

可相渡分

重義村

本石五石七斗四升貳合
一米拾五俵

一銀貳百九拾四匁五分貳厘

戻銀

内拾四匁三分六厘

酉廻米入用当

内貳百八拾匁壹分六厘

可相渡分

番田村

本石九石五斗六升九合
一米貳拾五俵

一銀貳百七拾壹匁貳分貳厘

戻銀

内貳拾三匁九分貳厘

酉廻米入用当

内貳百四拾七匁三分

可相渡分

田中々村

本石拾九石壹斗三升九合
一米五拾俵

一銀三百六拾貳匁五分六厘

戻銀

内四拾七匁八分五厘

酉廻米入用当

内三百拾四匁七分壹厘

可相渡分

十楽村

本石拾九石九斗四合
一米五拾貳俵

一銀三百四拾八匁五分八厘

戻銀

内四拾九匁七分六厘

酉廻米入用当

内貳百九拾八匁八分貳厘

可相渡分

船津村
本石百壹石八斗壹升八合
一米貳百六拾六俵

一銀三百三拾四匁五分九厘 戻銀

内 貳百五拾四匁五分五厘 酉廻米入用当
八拾匁四厘 可相渡分

西谷村
本石拾壹石四斗八升三合
一米三拾俵

一銀四拾匁八厘 戻銀

内 貳拾八匁七分壹厘 酉廻米入用当
拾壹匁三分七厘 可相渡分

右者去申之御年貢米之内当春江戸廻米割如此候、三月上旬三国湊へから船入津筈二候、右廻米半分八来二月十日津出可仕候、残半分ハ三月朔日津出仕船積無滞様ニ可相心得候、不及申候へ共米拵・繩俵拵等入念可申候、万一令延引候ハ、吟味之上曲事可申付候条、少も油断有之間敷候

一廻米入用先割銀、廻米壹石ニ付銀貳匁五分宛取立候筈二候、然処申春廻米入用銀割戻有之二付、村々申之廻米高を以割戻指引、村毎ニ記候而可得其意候、但可取立分ハ早々大庄屋方へ可相納候、此廻状村下二庄屋致名印早々相廻、留り之村ハ大庄屋所へ可相返候、以上

正月廿一日

宮田幾右衛門印
齋藤久野右衛門印

右村々
庄屋中

山本沢右衛門印
杉山織右衛門印

一鉄炮之証文御案紙沢右衛門様ハ被遣請取申候

正月廿四日
同廿五日

一右御廻米割之御廻状ニ拙者添配符仕村々へ出し申候

酉春御廻米并入用先割銀去申年分戻り銀を以指引之覚
本石九百五拾壹石壹斗九升六合
一御米貳千四百八拾五俵 酉春組下へ当米

一銀三貫五百九拾五匁七分貳厘 申春戻り銀

此訊

本銀貳貫三百七拾八匁 酉春御廻米入用貳匁五分ツ、
銀貳貫三百貳拾七匁五分五厘 酉春御廻米入用之内二次
銀壹貫貳百六拾八匁壹分七厘 請取村々へ可相渡分

内

三匁三分九厘 前谷村

拾匁七分六厘 宮谷村

壹分五厘 青野木村

五匁壹分六厘 清王村

六分四厘 西方寺村

三匁八分壹厘 牛山村

拾壹匁八分六厘 国影村

同三日

貳百八拾匁壹分六厘 重義村

同四日

貳百四拾七匁三分 番田村

同五日

三百拾四匁七分壹厘 田中々村

同六日

貳百九拾八匁八分貳厘 十楽村

同七日

八拾匁四厘 舟津村

拾壹匁三分七厘 西谷村

一申寒造酒売出候義江戸へ相伺候処、勝手次第売出候様ニ可申付旨
被仰下候間、造酒屋共へ可被申渡候、以上

銀五拾匁四分五厘 酉春御廻米入用銀之内取立可指上分

酉二月六日

宮田幾右衛門

内

貳拾三匁五分九厘 笹岡村

山本沢右衛門

五匁四分三厘 赤尾村

杉山織右衛門

三匁壹分四厘 横垣村

大庄屋
二郎左衛門殿

拾八匁貳分九厘 井江葭村

右之通指引御書付相違無之候

右之通御配符被遣候ニ付前谷村清左衛門方へ早速申渡候、并幾右
衛門様方清左衛門方へ御配符被遣候ニ付相渡し候
一未・申ノ皆済状取二鯖江へ遣し候、其外之御用ニ付五日ニ参今日
歸

正月廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

同卅日

二月一日

一去申所払金納直段、米壹石二付銀五拾四匁三分九厘ニ被仰付候

同二日

条可被其意候

覚

同九日

同八日

一大庄屋へ可申渡旨江戸へ申来候趣、別紙認遣し候間致名印可被指越候、以上

二月八日

宮田幾右衛門印

山本沢右衛門印

斎藤久野右衛門印

杉山織右衛門印

前谷村大庄屋
二郎左衛門殿

右大庄屋へ被仰渡候別紙御書付ハ無用之者訴訟有之と申、御役所無御断他所江戸へ参間敷由之御書付、写有

一申ノ年塩直段壱石ニ付拾六匁式分六厘

二月十日

同十一日

同十二日

同十三日

同十四日

一今朝七ツ時ニ番田村小右衛門火元ニ而、同村徳兵衛類火之由申来候ニ付、出火之段々致吟味庄屋長百姓口上書を取、早々沢右衛門様迄申上候

二月十五日

同十六日

一番田村火元小右衛門を召連庄屋参候様ニと、沢右衛門様へ番田村へ直御配符被遣候段申来り候ニ付、小右衛門義且那寺ニ隠罷有候を呼出し指越候間、可然様ニ被仰付被下候様ニと沢右衛門様書状相添、番田村小右衛門・門三郎鯖江へ指越候

同十七日

一重義村庄屋中申来候ハ、同太郎兵衛倅孫四郎去三月へ家出を仕福居罷有候処、此中私共方へ参相断候ハ、親太郎兵衛と中悪敷候ニ付当分福居ニ罷有候、宗旨帳ニハ書載候様ニと相断候ニ付、其段太郎兵衛ニ申聞候へハ、宗旨帳載候事無用之由申候、如何可仕候哉被申候ニ付、跡々色々出入取組扱ニ而大方相済候処、太郎兵衛実子娘と縁組も不仕候ニ付、親と論候□も如何と存、当分福居ニ罷有候とて宗旨帳ニも載不申事ハ成間敷様ニ聞候、とかく村中相談次第ニ仕候様ニと申候

一右太郎兵衛妻参候而右之段々申ニ付、何共自分了簡を以年来之出入批判難申候間、其村五右衛門参候様ニ可被申候、五右衛門と様子可申渡と申候

同十八日

同十九日

同廿日

一番田村小右衛門出火之義、火之元麓末ニ仕候故火事有之候ニ付、

日数廿日手錠被仰付候由沢右衛門様御手紙被遣候、御手紙有

一申ノ年御廻米入用御勘定帖式冊、舟寄村次ニ而参候を請取置候

同廿一日

一鉄炮御法度証文村々判形取之候

一無用之者御断不申上江戸其他所へ参間敷由、大庄屋一判之御

書付ニ村々之庄屋長百姓判形取候

一去申春御廻米入用銀勘定帳式冊

一火之用心・盗人用心仕候様ニとの証文巻通

一当春御廻米早々仕立候様ニと段々申渡候

右之御用ニ付村々庄屋長百姓中呼寄候而委細申渡候

同廿二日

同廿三日

一右鉄炮御法度之証文、無用之者御断不申上江戸へ参間敷証文、其

外御用共ニ付沢右衛門様迄書状為持、下人喜八鯖江へ遣し候

一申御廻米勘定帖式冊、後山村平介方へ遣し候様ニ添配符仕柵村へ

遣し候

一去十日ハ廻米津出可仕旨先達而^(申)被遣候得共、打続雪降候故三

国湊へ相越候事只今迄令延引候、雪消候ニ付而来廿五日ハ三国

湊へ沢右衛門罷出候間、御米早々無滞津出し可仕候、少も油断

有間敷候、以上

二月廿一日

宮田幾右衛門印

山本沢右衛門印

前谷村大庄屋

二郎左衛門殿

二月廿四日

一笹岡村市右衛門・同村清右衛門質物高之義ニ付出入有之候由、年

内ハ度々申出候処、明廿五日鯖江へ訴訟指上申度由申来り候ニ付、

織右衛門様迄口上書を以申上候、相手前谷村清左衛門

一鯖江ハ喜八罷帰、沢右衛門様御返事有、後山村権左衛門方へ御状

被遣候ニ付平介方へ指越申候

一当西春御廻米江戸納庄屋上乘之者、御請証文・親類書之案紙共ニ

後山ハ参候ニ付請取申候

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一沢右衛門様御米津出し為御用当廿五日ハ三国へ御越被成候ニ付、

自分今日三国へ参御用之段々承候

同廿八日

一番田村出火ニ付火元小右衛門ニ日数廿日手錠被仰付候ニ付、御詫

言之義ニ付廿六日ハ庄屋長百姓鯖江へ参候ニ付、織右衛門様迄書

状指添遣し候処、御免無之段御返状被遣、御符印改ニ五人与ニ連
させ遣シ申様ニと被仰付候ニ付其通申付候

同廿九日

一 右納庄屋上乘請証文判形相濟候付沢右衛門様へ指上候

一 中札御判申請ニ指上候

三月朔日

一 右中札之内井江葭・横垣・牛山・赤尾・清王・青野木札之内ニ、
書様悪敷分ハ御撰出し候而御返し候ニ付、右村々へ申遣し候

一 御米津出し滞候ニ付沢右衛門様へ村々へ御配符被遣候故、添書仕
早々十楽迄遣し申候

一 御触状御案紙被遣候村々庄屋長百姓、印形取指上候様ニと被仰
越候

一 去年御詮義残り候出入、笹岡村清右衛門・宗右衛門・宮谷村武
兵衛・前谷村清左衛門、三月十日ニ罷出候様ニと御配符被遣候

右御配符有

上乘四番船 舟津村甚右衛門
同七番船 牛山村権右衛門

同二日

同三日

一 十楽与三右衛門、田中々村才兵衛・長兵衛、番田五兵衛、重義村
七郎兵衛・弥右衛門、西谷村次兵衛・五郎右衛門、舟津弥次兵衛、
国影次右衛門、牛山弥兵衛、井江葭長左衛門、横垣次郎兵衛、赤
尾庄右衛門、青野木弥次兵衛、御米之義ニ付三国へ参候、則沢右
衛門様へ被罷出段々被仰渡候

同四日

三月五日

同六日

同七日

同八日

同九日

一 西方寺村太郎兵衛、柿原十楽村庄兵衛・細呂木太郎左衛門質高之
義ニ付、太郎兵衛方へ右之田打起候へハ、庄兵衛方へ大勢罷出取
合仕、西方寺村郷右衛門少々手疵付候由断申ニ付、去年へ石田・
鯖江御上之御詮義ニ候へハ、下ニ而何と不及吟味候間、鯖江へ参
候而去年へ之段々申上候様ニと申渡候

一 笹岡村助左衛門と同村宗右衛門山手米之義ニ付出入有之由、助左
衛門書付持参候ニ付、宗右衛門手前吟味可仕候間、二三日之内相
待候様ニと助左衛門ニ申渡し候

一 宮谷村庄左衛門・庄右衛門、欠落人与次右衛門相尋候様ニと被仰
付、正月中旬へ二月廿九日迄京・大坂・伊勢・尾張・美濃、下ハ

加賀・能登相尋候得共行方知不申候二付、三月一日鯖江へ御断申上候へハ、又右兩人近日罷出四月晦日迄江戸辺參候而相尋候様二と被仰付候由申来り候

覚

三月五日

宮谷村

一栗毛三才馬老疋 髮切 清右衛門

一黒毛四才馬老疋 小荷駄 権右衛門

一鹿毛四才馬老疋 同 同人

右ハ上方通手形奥判仕候、但当日ニ手形指上候へ共失念ニ而只今記置候

一笹岡村武兵衛・前谷村清左衛門出入御聞被成候二付、当六日右兩人共ニ鯖江へ參候由二候

一笹岡村市右衛門・清右衛門と前谷村清左衛門と出入御聞被成候二付、当八日ニ右之三人并同村宗左衛門・宗右衛門・宮谷村権右衛門鯖江へ參候由

同十日

同十一日

一笹岡村角左衛門・太左衛門・権四郎御用候間申付、早々鯖江へ遣し候様ニと織右衛門様御配符被遣候二付、宗左衛門ハ鯖江參候而居不申候二付、長百姓・宗兵衛・仁左衛門方右三人、今日之内ニ鯖江へ參候様ニと配符遣し候

同十二日

一村々庄屋中呼寄御廻米之吟味仕、早々相納候様ニと申付候、并公事訴訟之義ニ江戸參候者、永逗留仕間敷由被仰渡之御書付ニ判形取申候

一笹岡村助左衛門、山手米之義ニ付同村宗右衛門と出入有之由訴状指出候二付、仁左衛門・利兵衛・助左衛門共ニ呼寄様子吟味仕候処、仁左衛門・利兵衛申候ハ、宗右衛門鯖江ハ罷歸候ハ、双方異見仕、何とそ下ニ而相濟申度候間、訴状取次申事延引仕候様ニと右兩人申二付、何とそ下ニ而相濟申様ニ申渡し候

一笹岡利兵衛方ハ自分取置候質高之利足米、去々年未年分相濟不申候付、質高之田畑請取可申由利兵衛へ申渡候へハ、何様ニも田畑支配仕候様ニと申候

一同村九右衛門・善兵衛方ハ、自分取置候質高之義如何様ニ仕候哉と相尋候へハ、持高不殘放不申候而ハ罷成候二付、兼而宗左衛門・宗右衛門ニ申置候間、如何様共相談仕候様ニと申候へ共、右兩人共ニ出入之義鯖江ニ罷有候二付、罷歸候迄相待可申由申渡し候

一柿原西方寺村庄屋権兵衛召連早々鯖江へ參候様ニと織右衛門様御配符被遣候二付、其段権兵衛方へ申遣し候

三月十三日

一西方寺村権兵衛・太郎兵衛・市郎右衛門召連御陣屋へ罷出候へハ

織右衛門被仰聞候ハ、柿原十楽村庄兵衛と西方寺村太郎兵衛出入

仕候、細呂木村太郎左衛門質高九石之内五石七斗余高之去申御年

貢金権兵衛請取候由、其子細如何様之事ニ候哉と御尋ニ付、庄屋

権兵衛銀七匁五分庄兵衛方へ請取候ニ付、権兵衛義新庄屋ニ而様

子不存請取候故庄兵衛方へ断申、右銀子返シ申様ニと権兵衛ニ申

付候処、其段庄兵衛ニ申聞候へハ右之銀子取返し申間敷由ニ而、

庄兵衛方へ申十月十八日ニ銀拾匁三分五厘元庄屋市郎右衛門請取

返、十一月廿八日ニ銀七匁五分替庄屋権兵衛請取候由、一紙之通

ニ有之由通之写指出し候ニ付、此出入相手同事ニ能存候、市郎右

衛門御年貢金請取候との通出し置候故ハ、権兵衛右之銀子請取候

事不念共難申候と右庄兵衛指出候通之写指出候へハ、太郎兵衛・

市郎右衛門不念段々有事ニ候へハ、右之田地手指申間敷旨右兩人

口書御取被成、通之写共ニ御取上ケ被成候而罷歸り候

一江戸へ公事訴訟ニ参候者、埒明候ハ、早々可罷歸との御書付判形

取御陣屋へ指上候

同十四日

同十五日

一鯖江へ直二三国へ参、西方寺村之義此度織右衛門様被仰付候段々

沢右衛門様へ申上候

同十六日

同十七日

一赤尾村・青野木村借米手形御裏判沢右衛門様へ申上候

同十八日

一番田村五兵衛・弥左衛門・十右衛門参候ニ付、右へ度々申聞候北

金津藤右衛門へ又左衛門借銀之事、南金津新屋へ借銀之事、同村

弥右衛門訴之事、段々申聞候

一米式拾表 かり主赤尾村^{庄屋}長百姓

此質高三拾石 西十月切三わり之利証文沢右衛門様御裏判を申

請候

右証文赤尾村二郎兵衛ニ渡ス

同十九日

同廿日

一西方寺村御廻米之内壹表壹斗余、太郎兵衛・十楽村庄兵衛出入高

五石七斗五升分、当御廻米太郎兵衛方へ相納可申由申出候ニ付、

最前鯖江ニ而太郎兵衛指上候口書之趣「^一」庄兵衛方へ相納可

申と申ニ付、惣取米拾式表之内五表ハ権兵衛・十右衛門・五十郎

・善兵衛、御廻米四表ハ太郎兵衛・市郎右衛門御廻米之間、右之

通相納被申候様ニと立合中へ手紙遣し申候

一右壹表壹斗余之御廻米、太郎兵衛方へ相納可申候哉、庄兵衛方へ

相納可申候哉、了簡被遊被仰下候様ニと織右衛門様口上書、西方

寺村太郎兵衛持参候様ニと市郎右衛門ニ口上書相渡し申候
一 御廻米から舟六艘今日三国湊へ入津仕候

三月廿一日

同廿二日

一 御廻米空船不残三国湊へ着岸仕候

一 番田村徳兵衛持高式石余、同村小右衛門去暮三年季ニ相渡候処、

庄屋弥右衛門ニも其断不申、彦兵衛取扱ニ而質物置申候、去御年

貢・去申春御廻米かり銀何方を相立可申との断も無之候ニ付、徳

兵衛・小右衛門共ニ呼寄、加判人彦兵衛・右兩人共ニ相談之上、

申春御廻米代銀・同年貢共ニ急度相済可被申候、庄屋へも無断高

取遣り之事難心得候由申聞候

一 番田村又左衛門、北金津藤右衛門方より金之事、何とぞ埒明候

様ニと段々庄や五兵衛・又左衛門ニ申渡候

一 同村弥右衛門と五兵衛組と中悪敷候事不可然候間、自分扱ニ而中

直り申様ニと右兩人へ申聞候

同廿三日

同廿四日

同廿五日

一 柿原西方寺村御廻米、同十楽村庄兵衛と太郎兵衛と諍之義、織右
衛門様へ太郎兵衛を以鏡ニ遣し候へハ、去作庄兵衛方へ刈取、初

納金も庄兵衛方より市郎右衛門請取申事ニ候へハ、御廻米も庄兵衛
方より立させ申様ニと被仰付候由太郎兵衛申来、□□付弥太郎兵衛
申渡、権兵衛方へ其通申遣し候

同廿六日

一 当御廻米入不足之村々吟味仕候

同廿七日

同廿八日

一 笹岡村助左衛門山手米之義ニ付宗右衛門出入有之由、助左衛門書

付指出候処、市右衛門・利兵衛何とぞ下ニ而相済可申と申ニ付其

通ニ仕候処、助左衛門・市右衛門同道ニ而参候而市右衛門色々扱

候得共、助左衛門是非共訴状御役所指上申度と達而申ニ付、織右

衛門様へ手紙ニ而右之様子申上候

同廿九日

四月朔日

同二日

同三日

一 田中々村七兵衛・義兵衛方へ馬面源右衛門貸銀埒明不申由断申ニ
付、田中々村はいふ遣し申候

一 舟津村御検地ニ付、氏神薬師・春日・^(観)勸音三社之社地豎横間数相

改、絵図一社老紙ツ、二書立指上可申候、同村湯池願之之義并舟
津村・重義村古水帳去年指上候哉、指上不申候哉御尋二付、去年
指上候二付証文を取今日指上候、舟津村之義ハ庄屋長百姓鯖江へ
参候、久野右衛門様右之段被仰越候

四月四日

同五日

同六日

一金四両 沢右衛門様を預り申候、則手形指上候

同七日

同八日

同九日

一金壹両 北村御年貢金権右衛門二相渡

同十日

同十一日

同十二日

一金三両 出村平右衛門家代金之内平七両入

一金壹両 きの国屋宗左衛門貸金之内入

一金貳両銀九匁六分 東郷屋清次郎へ申ノ暮かし金元利相済請取

仮手形相渡、重而本証文と引かへ可申答二候

一銀三拾匁 麦屋吉左衛門を請取

一金壹両平右衛門家代金之内吉左衛門当座かり二仕候二付、右
壹両之内三拾匁請取、八匁けは切代、残貳拾貳匁不足

一金壹両 堀尻殿御取立頼母子講掛金、金津新屋へ渡

一金貳両 城州へ渡

一金貳両 自分御米詔代金之内吉江屋へ相渡、拾表代金之内

同十三日

一金拾両貳分銀拾貳匁貳分

笹岡村御廻米代銀、四月廿日切鯖江伝兵衛方へ預り手形二自
分奥判いたし候

一金貳分 出村善大夫を請取

申ノ暮金壹両貸候而内貳分魚油二而入、残而貳分只今請取利

銀さん用不仕候

同十四日

一当西春御廻米与下村々今日相済

同十五日

同十六日

同十七日

一銀貳拾貳匁五分 松岡屋七右衛門を取

当二月末ニ金貳分かし候内請取

覚

同十八日

一 銀貳百八拾八匁六分 十楽村

同十九日

一 銀百貳拾三匁 重義村

一年六十壹歳 比丘尼壹人 十楽村寛山母 宝月

一 銀三百貳拾貳匁 番田村

右ハ加州山中湯治仕度由、細呂木口通り手形ニ奥判仕指上候

一 銀三百四拾三匁 青野木村

一 銀貳百八匁 西谷村

四月廿日

一 銀百貳拾五匁 青野木村

同廿一日

右ハ御廻米代銀四月晦日切吉江屋弥兵衛残銀書出し如此候

同廿二日

一 西方寺村権兵衛と同村市郎右衛門畑境論有之由権兵衛断申二付、

一 笹岡村善兵衛持高、熊坂村清右衛門・柿原十楽村庄兵衛・笹岡村宗右衛門此三人として預り高二仕候由相断申候、自分貸金右高代金ニ而相済筈ニ候

立合下ニ而埒明可申由申聞、市郎右衛門方へ其段はいふ遣し申候

同廿三日

一 右善兵衛小屋壺軒自分方へ買取申候、庄屋長百姓立合直段積り候而、相對を以買取候ニ付証文取置候

同廿四日

一 高壺石 笹岡村善兵衛持高之内 此代金拾四兩銀七匁

一 笹岡村九右衛門持高、同村市郎兵衛・宗右衛門・北疋田村長右衛門右三人方へ質物ニ入置、請出し不申流高罷成候ニ付、右三人方へ相渡申由九右衛門并右三人方お断ニ候、自分貸金右三人方お済

申筈ニ候

此代金拾八兩貳分銀三匁五分八厘

一 笹岡村助左衛門・同宗右衛門、山手米取遣り之義ニ付出入ニ罷成候ニ付、庄屋長百姓立合扱ニ而、先規取替し置候証文之通ニ相済候ニ付、双方連判ニ而済証文取置候

右ハ当西お寅迄六年季高預ケ証文ニ自分奥判仕候、高取主笹岡村市郎兵衛・宗右衛門方へ証文相渡申候

同廿五日

同廿六日

同廿七日

同廿八日

同廿九日

一野中村五左衛門舟之義二付、新保浦竹内長兵衛方へ布目村彦兵衛・拙者二書状遣しくれ候様にと五左衛門書状を取、我々兩人長兵衛方へ書状遣し申候、五左衛門状・我々留書共二有

同晦日

閏四月朔日

同二日

同三日

同四日

閏四月五日

同六日

同七日

同八日

同九日

一笹岡村作太夫後家持分油木沖之田壺ヶ所、前谷村清左衛門打開作候由訴状指出候二付、拙者指紙指添鯖江へ指上させ候

同十日

同十一日

同十二日

同十三日

同十四日

同十五日

一笹岡村五郎兵衛・善四郎江戸へかせき二参候二付、御役所へ訴状指上候二付自分與判仕候、留書有

*(付紙) 覚

一銀七匁壹分

一銀四匁五分

一銀三匁六分

一銀拾五匁

一銀七匁五分

一銀三拾七匁七分

堅□壺通

氷砂(糖)唐壺斤

人足代

入用

同

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

一笹岡村作太夫後家前谷村清左衛門と出入田之義二付、双方并前谷

村・笹岡村庄屋長百姓鯖江へ被召寄御吟味之上、当秋中殿様御了簡可被遊候間、先当作清左衛門二被仰付候由何れも申候

三兩壹分

五月十日

一 西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門御用有之候間、明廿二日指越候様

三兩

同廿日

二と織右衛門様を御配符被遣候二付、右之村へはいふ遣し申候

一金拾五兩

舟津村

一 笹岡村武兵衛・前谷村清左衛門と出入有之由、庄や宗左衛門我等

内

八兩

五月十日

方へも断不申訴状直二御役所へ指上申候処、右武兵衛義、清左衛

七兩

同廿日

門と出入之義二去年御断不申上江戸へ参候二付五人組へ御預ケ之

一金六兩貳分

牛山村

処、我か儘二御役所罷出候二付牢舎被仰付、其上五人組之者共庄

内

屋共二被召寄候

三兩貳分

五月十日

同廿二日

一金拾九兩壹分

井江葎村

覚

内

一金貳拾五兩貳分

重義村

拾兩

五月十日

内

拾三兩

五月十日

一金三兩

横垣村

拾貳兩貳分

同廿日

内

一金貳拾六兩

番田村

壹兩三分

五月十日

内

拾三兩貳分

五月十日

一金九兩貳分貳朱

国影村

拾貳兩貳分

同廿日

内

一金六兩壹分

西谷村

五兩

五月十日

内

四兩貳分貳朱

同廿日

百拾貳兩壹分 同廿日

右者去申御年貢金納下り之分、来月十日・廿日兩度取立急度可被相納候、已上

閏四月廿一日

杉山織右衛門印

前谷村

大庄屋二郎左衛門殿

右之御配符被遣候、添配符仕早々村々へ申触、庄屋判形取之候

閏四月廿三日

一御書直シ被成候きりしたん札御役所有之候間、村々相尋取ニ遣し候様ニと沢右衛門様を被仰越候

一笹岡村武兵衛牢舎御免ニ而罷歸候由

同廿四日

同廿五日

同廿六日

一当酉年宗旨御改百姓判取申候ニ付、去御年貢金最前被遣候御書付之通、来月十日・廿日兩度ニ相濟被申候様ニと庄屋長百姓中へ堅申渡し候

同廿七日

同廿八日

同廿九日

五月一日

同二日

一当酉年宗旨御改帖寺判、昨日を後山村平助方ニ而取申候

同三日

同四日

一打続水旱ニ而村々田方水無之候ニ付、為御断権右衛門鯖江へ参候、則村々御普請帳写取候

同五日

一河原毛三才馬壹疋 髮切

清王村

九右衛門

右ハ二ツ屋口通手形奥判仕候

一十楽村宝月尼加州山中湯治罷歸申ニ付、通り手形右九右衛門馬引

ニ言伝、内田半兵衛殿迄返上いたし候

一権右衛門罷歸り候

同六日

一西方寺村十右衛門・市郎右衛門あせち分開畑之義、去年出入之上十右衛門持分被仰付候処、市郎右衛門方を麦かり取申ニ付、十右衛門罷出麦四束余、鎌式丁押へ候へハ、市郎右衛門方を十右衛門方へかけ込、鎌式丁たくり取申、其外いめ式間引つふし、八升鍋をツ打わり申由十右衛門相断候ニ付、市郎右衛門吟味仕候へハ、

去年出入之上御了簡二ハ、右開畑面々高当りニ割取候様ニと被仰付候二付、麦を蒔付置候二付此度かり取候へハ、十右衛門麦五束・鎌式丁押取候二付、歛式丁たくり取、残麦式束市郎（右衛門）取置候由申二付、右畑之義去年御了簡之義、何時ニ而相窺候ハ、相知可申候、当分両方へ取候麦之義面々預り置、重而相知次第二取可申事、歛・鎌之義（自農）ハ時分之濃具二候へハ、面々方へ取返申候様ニと申付候得共、十右衛門承引不仕候

同七日

一 笹岡村取立頭五郎右衛門・市郎兵衛・宗兵衛・宗右衛門・仁左衛門

五月八日

一 重義・番田・田中々村・十楽・国影此五ヶ村、田方水無之白われ
二 成候二付、罷越見分仕候処水少も無之候故、右五ヶ（村）を指出し候書付ニ自分奥判仕鯖江へ指上候

同九日

一 十楽村又左衛門ニ右五ヶ村之書付為持候而鯖江へ指上候
一金拾兩未七月十一日ニ大柳太兵衛殿を預り、去申七月を当五月迄之利金貳兩、元利金拾貳兩、十楽村又左衛門ニ言伝遣し候而、右之手形取返し消申候

同十日

一 右十楽村又左衛門鯖江を罷歸り候
一 今日を万的和尚雨乞頼候二付、赤尾村を下村々へ申遣し申候、雨少ふり申候

同十一日

同十二日

同十三日

同十四日

一村々水無之候二付、少々出入有之候を様子相尋候而相濟申候

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

同廿一日

一去申ノ御年貢金村々を請取申候

同廿二日

一 笹岡村御年貢金之吟味仕候

一 宮谷村庄左衛門・庄右衛門願状壹通、同村庄屋長百姓お与次右衛門高・家之義二付窺書壹通請取候

同廿三日

酉年御普請所御扶持米之覺

一人足三百九拾六人 笹岡村

此扶持米壹石九斗八升

此銀百七匁六分九厘

雜丸太百拾式本半

長式間
末口式寸

から竹三百七拾五本 五寸廻

一人足四百式拾五人 西谷村

此ふち米式石壹斗式升五合

此銀百拾五匁五分八厘

一人足八百五拾三人 城村

此御ふち米四石式斗六升五合

此銀式百三拾壹匁九分七厘

一人足五百八拾五人 重義村

此御ふち米式石九斗式升五合

此銀百五拾九匁九厘

一人足五百式拾五人 番田村

此御ふち米式石六斗式升五合

此銀百四拾式匁七分七厘

一人足四百六拾八人 田中々村

此御ふち米式石三斗四升

此銀百式拾七匁式分七厘

一人足式百六拾式人半 十楽村

此御扶持米壹石三斗壹升式合五匁

此銀七拾壹匁三分九厘

右之寄

人足三千五百拾四人半

此御扶持米拾七石五斗七升式合五匁

此銀九百五拾五匁七分六厘

但壹石二付五拾四匁三分九厘代

五月廿四日

一 鯖江へ御金持参、其外御用二参候

同廿五日

一金百式拾五兩銀八匁四分 取立金包指上候

一金式拾壹兩銀八匁壹分七厘

是ハ申春御廻米入用戻り銀之内当酉春御廻米入用銀二指上、残

金申御年貢金二指上候二付御通帳二付請取

小以銀百四拾六兩壹分銀壹匁五分七厘

織右衛門様御通帖二付

一 銀五拾匁四分五厘 右申春御廻米入用戻り銀、当西春御廻米入用銀二指次指上候外二不足、右之通二候故取立指上

一 銀貳貫三百貳拾七匁五分五厘

去申ノ春御廻米入用戻り銀之内ニ而、当西春御廻米入用銀二指

次指上候分

小以銀貳貫三百七拾八匁 西五月廿五日御手形

西春御廻米高九百五拾壹石壹斗九升六合

但壹石ニ付銀貳匁五分ツ、

右之御手形算用違有之二付、書付を以織右衛門様へ申上候得ハ、

手形御書直シ被遣候

一 銀四匁九分五厘 包賃之内掛屋十兵衛へ渡

一金拾五匁三分銀拾匁七分六厘

是ハ当西年村々御普請人足扶持代金請取、拙者請取手形指上候

一 宮谷村与次右衛門家・高・諸道具之義并借金之義、庄屋長百姓書

付指上候ニ付窺候へハ、右之段々目録書を以申上候様ニと被仰付

候

一 同村庄左衛門・庄右衛門、右与次右衛門尋ニ国々へ罷越候雜用失

脚銀之願状指上候へハ、(古郡年明・鯖江代官)当秋中文右衛門様御登り前ニ願状指上候

様ニと被仰付候

一 同村三右衛門子十三郎欠落仕候ニ付、勘当之書付指上候へハ、十

三郎罷歸候ハ、召連罷出勘当之段可申上候、当分ハ欠落之義斗書

付可指上候由被仰付候

一 笹岡村宗右衛門と前谷村清左衛門争之田之義ニ付、宗右衛門口書指上候、是ハ下ニ而吟味仕重而申上候様ニと被仰付候

一 西方寺村市郎右衛門と十右衛門争之開畑之(義ニ付カ)□□□□十右衛門口書指

上候得共、此出入御取上ケ難被成筋ニ而、去年ハ御取上ケ無之事

二候へハ、御了簡難被成由ニ而口上書御返し被成候

一 西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門、鯖江へ近日參候様ニ可申付由被

仰付候

一 去申年村々名寄帳拾九冊、当西之年村々宗門御改帖拾九冊、内田

半兵衛殿へ相渡申候

右之通ニ而鯖江ハ罷歸り候

五月廿六日

一 右之段々(マ)宮前谷村義兵衛へ申渡、書付三通返し申候

同廿七日

同廿八日

同廿八日

同廿八日

一 当西春御廻米入用之御手形相違有之二付、前谷村清右衛門ニ為持

昨日鯖江へ遣候へハ、御手形御書直し候而被遣候

一 村々庄屋呼寄、御未進金之事、田畑日損之事、申御口米直段之事、

申ノ春御廻米入用戻り銀通ニ付渡し候事、西年御普請所人足ふち

代銀不残相渡し候事

同廿九日

同晦日

六月一日

同二日

同三日

一去冬已来之郡中割勘定可申付候間、来ル七日与下庄屋之内如例
可被指越候、已上

六月二日

杉山織右衛門 印

前谷村二郎左衛門殿

右之御配符有

同四日

一 宮谷村義兵衛方へ立合ニ鯖江へ参候様ニと^(被)遣候へハ、障入之由
断二付、十楽村与三右衛門方へ申遣し候

同五日

同六日

一 北金津藤右衛門、番田村又左衛門借金之義未ノ暮之証文面を以金
貳両只今相渡、残金壹ケ年ニ壹両ツ、相済可申候、此年符金之義、
又左衛門持高庄屋長百姓共右年符之内預り、其作徳を以相済申度
候、然者又左衛門かり主ニ而も無之由、則若藤屋弥次兵衛を以申

聞候得共、藤右衛門相済不申候二付、又左衛門も此上者如何様ニ
成候共手ニおよひ不申候と申候

同七日

一 十楽村与三右衛門鯖江大割之立合ニ今日遣し申候、宮谷村与次右
衛門跡式之義二付、庄屋長百姓窺書壹通、与次右衛門借金証文之
写壹通、御年貢借金指引目録壹通、宮谷村三右衛門子十三郎欠落
之書付壹通、沢右衛門様迄指上申候

同八日

一去申ノ御年貢金不足之分、今日持参候様ニと番田村へ当五日ニ配
符出し候処、其配符番田村五兵衛失念仕留置候由断申来り候二付、
重而村々へ配符遣し申候

六月九日

一 銀九分 宮谷村申御年貢算用過預り申候

一金四拾兩三分銀六匁式分七厘 村々へ請取金

外

金貳両 宮谷村へ預り金之内悪金之用意金ニ遣し申候

ノ金四拾貳兩三分銀六匁式分七厘

右之金子并申之御年貢御通帖共二下人喜八ニ為持、十楽村与三右

衛門鯖江ニ罷有候ニ付、委細書付を添明十日ニ鯖江へ遣し申候

同日

一家来喜八右之御金を持鯖江へ参候

同十一日

一右御金無相違指上喜八罷歸り候

一柿原西方寺村太郎兵衛・市郎右衛門、鯖江へ早々参候様ニと織右衛門様お被仰越申付候、即御配符有

同十二日

同十三日

同十四日

一大庄屋方ニ而御貯麦拾買仕候積直段付取之御伺可被遊由ニ而、直段付之案紙式通、織右衛門様お被遣候御配符并留書有

同十五日

一十楽村与三右衛門鯖江大割立合相济候而、(昨)十四日ニ罷歸り候由、諸帳面請取申候

同十六日

同十七日

一宮谷村与次右衛門尚又尋候義ニ付御用有之候間、宮谷村庄右衛門・庄左衛門・庄屋相添、早々鯖江へ参候様ニと織右衛門様お被仰越候、御配符有

同十八日

同十九日

同廿日

一去申ノ御年貢納下り金并御口米代銀共ニ、当廿八日切ニ皆济仕候様ニと織右衛門様御配符被遣候、有之候

一牛馬ニ重荷付不申、痛り候様ニと被仰渡之、御書付案紙被遣候
一村々庄屋長百姓呼寄、去申ノ御年貢殘金・御口米代銀割銀共ニ当

月廿八日切ニ相济可被申候、并去申七月廿二日・三日堀左京様御(堀直利、越後村松藩主)通り伝馬代銀、壹疋ニ付四匁式分、人足壹人ニ付式匁壹分割ニ成候ニ付、村々出馬・出入足相改、村々へ書付相渡申候

一上乘舟津甚右衛門十八日ニ罷歸候由申来り候

同廿一日

一麦四斗六升ニ付銀拾三匁五分ニシテ
一壹石ニ付銀式拾九匁三分五厘ニシテ

金壹両ニ付麦式石四升四合式勺
両かへ六拾匁かへニシテ

金五拾兩ニ麦百式石式斗壹升

此表式百四表式斗壹升

右之直段を以麦拾買ニ可仕書付鯖江へ指上可申候、但留書有

六月廿二日

同廿三日

一御貯麦拾買直段付書付壹通、牛馬あわれミ可申由書付壹通、賀平
太ニ為持鯖江へ指上申候

同廿四日

同廿五日

一番田村吉右衛門有坪堂木と申所之田、同村弥右衛門と水圍之義ニ
付出入有之候ニ付而、吉右衛門田之立毛弥右衛門損シ申由吉右衛
門方断申来候、庄屋長百姓相談ニ而相濟候様ニと申遣し候

同廿六日

一年四十八歳女壹人 国影村

右ハ伊勢参宮仕候ニ付、板取口通手形庄屋長百姓指出し候ニ付奥
判仕候

右之手形返り候ニ付判消申候

同廿七日

一年五十歳才女壹人 横垣村

次右衛門母

一年五十八才女壹人

甚右衛門妻

一年四十才女壹人

久右衛門妻

一年三十四才女壹人

長右衛門妻

右ハ伊勢参度由ニ而、板取口通り手形庄屋長百姓出し候ニ付奥判
仕候

右之手形返り候ニ付判消申候

同廿八日

一申ノ御年貢金・御口米代今日切ニ皆済仕候様ニと、織右衛門様
御配符被遣候、御配符有

同廿九日

七月朔日

一番田村吉右衛門・弥右衛門田境出入、村ニ而済不申候由庄屋長百
姓断ニ付、罷越見分仕候処弥右衛門相煩申由ニ而不罷出候ニ付、
立合見分之通庄屋長百姓口上書取置候、弥右衛門義氣分能成次第
参候様ニと申付候

同二日

一年七拾壹歳女壹人 宮谷村
権右衛門妻

右ハ京都報恩院へ参度由、板取口通り手形庄屋長百姓指出し候ニ
付、拙者代判権右衛門仕候

一村々御年貢金・御口米代取立申候、相残分吟味仕候
右手形返り候ニ付判消申候

同三日

一金四拾壹兩銀五匁六分八厘

内三拾九兩五匁六分八厘 村々も取立

残式両悪金用意ニ遣し候間、此者ニ御返し被下候様ニと、掛屋

十兵衛方へ書状ニ而申遣し候

右之御金喜八ニ為持今日鯖江へ遣し申候

七月四日

一喜八御金無相違指上罷歸り候、用意金返り候ニ付請取申候

一前谷村清左衛門申御年貢相濟不申候之由、笹岡村庄屋宗左衛門断

申二付、様子可承候間清左衛門罷出候様ニと宗左衛門を以申遣し

候へ共、参候事成間敷と申越候ニ付、沢右衛門様も御尋之義有之

由重而申遣し候へハ、漸悴清右衛門参候ニ付、未進金之義相尋候

得ハ、御口米代之外未進金三兩壹分候ニ付、相納可申と申候へハ、

宗左衛門壹兩三分余請取可申と申二付、相納不申候と申二付、年

内納金・当春御廻米共二高当り之分相納可申事二候へハ、持高御

年貢金・御廻米共二目録を出し候様ニと申候へハ、目録出し候事

成間敷と申二付、其方了簡ニ而申事を沢右衛門様へハ不被申上候

間、親清左衛門申聞候様ニと申、罷歸重而参候而目録出し候事成

間敷と申二付、何を以吟味可仕様無之候

同五日

一申御年貢実々益前皆済不罷成候百姓共ハ、持高・金高記之、何

程残未進金と記為指出、百姓吟味之上可指越旨沢右衛門様も被

仰越候、御配符有

一其組下庄屋共之内年寄病氣ニ而、有来庄屋共願書を以代り候□

□、先年申付候通新庄屋ニ神文可申付候間、勝手次第可被指越

候、且又判鑑も指配置候様ニ可被申付候

七月五日

山本沢右衛門

坂井郡大庄屋三人

右之御配符舟寄も参候ニ付後山へ遣し候

一久野右衛門様も御檢地ニ付入用銀、檢地村々割府被成候帖被遣

候ニ付、写取候而本帳後山へ遣し申候

一上乘牛山村権右衛門□朝爰(今)元著仕候、先月十七日ニ江戸発足之

処、十八日目ニ著候段不承届□相尋可申候間、早々参候様ニ可

申付旨沢右衛門様被仰越候、御配符有

同六日

一牛山村権右衛門昨日江戸も罷歸候由申来り候ニ付、沢右衛門様も

被仰越様子共申聞、鯖江へ参候様ニと申渡し候へハ、殊之外足を

痛申□(候)由申二付、此方ニ而道中逗留之段々吟味仕、口上書を取明

日可指上候、夫とても被召寄事ニ候ハ、重而鯖江へ参候様ニと申渡し候

一 銀拾六匁六分四厘

舟津村

一 銀拾六匁四分五厘

重義村

ノ三拾三匁九厘

右ハ久野右衛門様を被仰越候候檢地入用銀割付之分、右両村へ割付は

いふニ而申遣し候

覚

一金四拾壹兩壹分

一 銀札百三拾匁六分七厘

ノ四拾三兩壹分銀拾匁六分七厘

内

四拾壹兩壹分銀拾匁六分七厘 申御口米代包可指上分

壹兩 包賃之内掛屋十兵衛方へ相渡

残 壹兩 悪金用意ニ遣し候間此者ニ御返シ候様ニと委細十兵衛

「 』

右御口米代村々付訳書□御通帳「 』織右衛門様へ指上候

覚

一 銀五百六拾五匁六分八厘 酉夏□割□

前谷「 』一分

一 銀貳拾貳匁四分 二郎左衛門西春を夏迄之はたこ代

一 銀拾五匁 人足代十樂与三右衛門断有之候

一 銀拾五匁

与中庄屋長百姓共度々参候二付、彦五郎方茶代

ノ銀六百拾八匁八厘

内

金九兩銀札七拾八匁八厘

右之通彦五郎方書状添遣し候

一 銀四拾六匁三分 宮田幾右衛門様へ馬道具代銀ニ遣し申候

一 沢右衛門様へ書状ニ而申上候ハ、未進殘金貳拾三兩余之内七兩壹

分余笹岡村埒明不申候、相殘分ハ番田・重義・西谷此三ヶ村ニ有

之候、十一二日ニ可指上由申上候

一 前谷村清左衛門笹岡村支配高御年貢金、清左衛門ハ三兩壹分相納

可申と申候得共、庄屋宗左衛門壹兩三分ならてハ清左衛門未進無

之と申二付、吟味仕候得共清左衛門方を持高御廻米金方之目錄指

出シ申様ニと申候得共、目錄出し候事成不申と申二付、何を以吟

味可仕様無御座候、宗左衛門目錄指出し候ニ付指上申候

一 牛山村権右衛門江戸を罷歸り候節、日数懸り候口上書指上申候

一新庄屋共神文之義益後被仰付被下候様ニと申上候

七月七日

一 右之通申ノ御口米代金、酉夏割方銀、并掛屋十兵衛包賃金、彦五

郎方払銀、方々書状共為持喜八鯖江へ遣し申候

同八日

一喜八鯖江ニ而金子方々指上、御手形無相違請取候、但掛屋十兵衛
右用意金之内拾四匁引取被申候由ニ而、銀七拾四匁之手形請取候、
残金貳分銀拾六匁請取候

一右沢右衛門様へ申上候義共御返事被遣候、牛山権右衛門口上書ニ
而御聞届被遊候由、新庄屋共証文之義、益後一所ニ鯖江へ遣候様
ニと□□□□、前谷村清左衛門笹岡村支配高之義、下ニ而埒明不
申候ハ、当廿日ニ宗左衛門・清右衛門・市右衛門・利兵衛鯖江
へ遣し候様ニと被仰越候、御返状返し候様ニと被仰越候

同九日

同十日

一新保竹内長兵衛、津軽今別々金三拾兩野中宗二郎ニかし渡候由、
段々六月九日之書状到来ニ付、野中五左ニ為見被申候様ニと申候
て布目彦兵衛へ渡ス

一番田村吉右衛門・弥右衛門出入、下ニ而相濟候様ニと何れもへ申
候

同十一日

申ノ御年貢金包賃指引之覚

一金四百七拾五兩銀拾貳匁貳分四厘 御年貢金

一金四拾壹兩壹分銀拾匁六分七厘 御口米代

五百拾六兩貳分銀七匁九分壹厘

此包賃銀百五拾四匁九分九厘

内

六拾七匁四分六厘 申ノ冬相渡

七拾八匁九分五厘 酉夏中相渡

八匁五分八厘 七月十二日ニ「」

右之通掛屋十兵衛方書付銀□□遣□

一金拾七兩壹分銀六匁貳分貳厘 申□□年貢

一金壹兩 悪金用意ニ遣□^(候)

一金壹兩 久野右衛門様渡弓代銀之内

一銀三拾三匁九厘 御同人様へ檢地村割銀

一金壹兩 大柳太兵衛殿悪金代

一銀三拾匁 田中屋甚右衛門へ

一銀五拾匁 八まん屋喜右衛門へ

右之通喜八ニ相渡し遣ス

申御年貢納方目録

一金四百八拾七兩壹分銀八匁貳厘 惣金辻

内六兩八匁四分六厘 酒運上、清左衛門直納

残四百八拾壹兩拾四匁五分六厘

内

四百五拾七兩三分六匁貳厘 申冬々酉七月三日迄上納金

拾七兩壹分六匁貳分貳厘 酉七月十二日持參

残六両式匁三分式厘

内

式両拾式匁壹分式厘 西谷村七月廿日過六月大豆取候節迄御

指延被下様ニト

三両三分六匁式分 笹岡村未進別紙目錄指上候

右之通ニ御座候処少も相違無御座候、以上

酉七月十二日

次郎左衛門

山本沢右衛門殿

一右惣御金目錄、笹岡村未進金目錄、并当八日ニ被遣候御返状、次

二西谷村未進金、六月大豆出来候迄御指延被下候様ニト申上候、

笹岡村之義段々沢右衛門様へ書状指上候

七月十二日

一右之金子共并書物・書状喜八ニ為持、鯖江・福居へ遣し候

一金五両壹分銀九匁、十楽・番田・重義此三ヶ村、前田少心老お借

金三拾両申ノ十一月お酉六月迄九ヶ月分、壹ヶ月ニ式分宛利足金、

吉六ニ為持、少心老へ遣し□□請取手形被指越候

同十三日

一当酉年田畑旱損帖之案紙被遣、并織右衛門・幾右衛門様御配符被

遣候

一先達而村々お指上候旱損帖之田畑、其後之潤ニ而能可罷成候、不

納ニ相見候分斗吟味之上、帖面ニ記指出候様ニ可被申付候、即案

紙遣候、畑方も一紙ニ書載候様可被申付候、七月廿七八日頃迄之

内取揃指出し可被申候、先達而指出し候帖面ハ難用ニ付申付候、

能々可有指図候、以上

七月七日

宮田幾右衛門印

杉山織右衛門印

前谷村二郎左衛門殿

右之御配符柵村之者言伝参候由ニ而、前谷村義右衛門方お今日持

参候ニ付其段相尋候

一喜八鯖江お罷帰、御年貢金其外方々払銀無相違相渡、右何れも手

形并手紙等請取申候、悪金用意金壹両者丸岡こんや庄右衛門ニカ

し候て、仮手形庄右衛門指越候ニ付請取申候

覚

先月廿二日

(將軍綱吉生母桂昌院)

一位様御逝去被遊候旨昨日江戸お申来り候、普請・作事・鳴物可

為停止候、御免之義者追而可申触候、以上

西七月十三日

宮田幾右衛門印

佐藤代右衛門印

斎藤久野右衛門印

山本沢右衛門印

杉山織右衛門印

右被仰渡候通村中召仕等ニ至迄急度相守可申候、以上

右之御触状ニ添配符被遣候ニ付、此御触状ニ村々庄屋長百姓名付仕、拙者配符指添村々へ早々遣し申候

同廿日

一後山村平介方御状参候ニ付、柵村迄早々遣し申候

一去申ノ年役割帳早々指出候様ニと、織右衛門様御配符被遣有

一沢右衛門様御返事有

一笹岡村・西谷村残金請合証文取候

同廿一日

七月十四日

同十五日

一番田村吉右衛門・四郎兵衛参候ニ付、弥右衛門と出入之事下ニ而相濟候様ニと段々申聞候得ハ、相濟可申由申ニ付、重而弥右衛門証文を取、我等方留書吉右衛門へ相渡し可申由申聞候

同十六日

同十七日

同廿二日

一幾右衛門様、造酒屋清左衛門酒桶符印ニ御越被遊、清左衛門ニ御泊り

一笹岡村助左衛門と惣右衛門、山手米出入内々ニ而相濟候由、依之以後のため双方取かハし証文所持仕度と助左衛門願候、願之通取かハし証文可被申付候、且又川除普請人足御扶持代金、請取帳ニ其方印判取可申候条近日可罷越候、以上

一位様御逝去ニ付被仰付之御触状ニ村々判形を取、幾右衛門様へ是ニ而指上候

七月廿日

杉山織右衛門印

同十八日

次郎左衛門殿

一幾右衛門様御帰りニ付馬人足前谷村へ出、舟寄村ニ而次

右之御配符笹岡村助左衛門持参仕候、御配符有

同十九日

同廿三日

一前谷村清左衛門と笹岡村之者と出入ニ付、笹岡村宗左衛門・市右衛門鯖江へ御呼ニ付、沢右衛門様・久野右衛門様・幾右衛門様書状遣シ申候

一前谷村清左衛門笹岡村ニ而預り高相違ニ付、笹岡村宗左衛門・市右衛門・利兵衛、右清左衛門共ニ当十九日ニ鯖江へ被召寄候而御吟味被成候得共埒明不申、昨晚罷帰り候由ニ而市右衛門断ニ参候、

清左衛門外ニ未進金有之候得共、是も先取立不申指置候様ニと被

仰付候由、然共当十八日ニ利兵衛金式分銀六匁持参ニ付請取置候、

此金子も返し可申と申聞候得ハ、御返し候へハ取遣重而調申ニ付

迷惑仕候間、先預り置くれ候様ニと断ニ付、手前ニ預り置申候

七月廿四日

一白山へ禅定仕候

杉山織右衛門印

大庄屋三人

右之御配符有

追而久野右衛門様を益前檢地入用割帳被遣候処、返り不申候間何

方ニ滞有之候と被仰越候、後山を大野郡へ遣し、坂井郡ニ無之候

由御断申上候

同廿七日

同廿八日

同廿九日

上

一鳴物・作事御停止之処御免之条、被得其意村々へ可申渡候、已

七月廿三日

杉山織右衛門印

大庄屋二郎左衛門殿

右御配符有

一去申ノ年諸遣帖村々惣百姓判形取申ニ付、右鳴物・作事御免之事

村々へ申渡候、并村々旱損帖今日不残取揃申候

同廿六日

一申渡御用之義有之候間、来廿九日ニ参着候様ニ罷出可申候、為

其如此ニ候、以上

七月廿五日

齐藤久野右衛門印

佐藤代右衛門印

同晦日

一権右衛門鯖江を罷歸り候

八月一日

同二日

同三日

一白山を罷帰り候

同四日

一廿九日二被仰付候帳面之義ニ付、善右衛門・平助・自分共ニ玄女
村理兵衛方今日寄合申候

同五日

一田地上・中・下、反歩合付老人改「仰付候趣、案紙を以村々

ニ委敷「渡候

一宮谷村三右衛門忰十三郎欠落仕（候間）庄屋・長百姓・三右衛門・

五人与共ニ鯖江へ早々参候様ニ可申付旨、鯖江直ニ被仰越候ニ
付、早々宮谷村へ申遣候、尤御配符有

一沢右衛門様当御普請所仕形御改ニ大野郡を後山迄御越被遊、明日

笹岡を重義・番田辺御越可被成由被仰越候ニ付、人足式人笹岡村

・老人宮谷村・老人青野木・老人清王、ノ五人笹岡村ニ而次申様

ニと申遣候、人足老人重義・老人番田・式人田中々村・老人十楽

村、田中々村御昼休ニ而次候様ニと申遣候、田中々村才兵衛御昼

休被成候様ニと申遣候

八月六日

一沢右衛門様村々御普請所御吟味被成候而、田中々村才兵衛方ニ而
御昼休被成候、人足老人田中々村・老人番田、雇人足三人

同七日

一御同人西谷村へ御越、やとひ人足三人

一前谷村武右衛門、藤助様御見廻ニ山中へ遣し候

同八日

同九日

同十日

一武右衛門罷帰り候

一舟寄村へ御越、やとひ人足四人

同十一日

預り申金子之事

合金五両也 但壹両ニ付壹ヶ月ニ利銀壹匁ツ、

右之金子儘ニ預り請取申候、何時成とも御用次第ニ返済可申候、

為其預り手形仍如件

宝永貳年酉八月十一日

土屋二郎左衛門 印

小嶋五左衛門殿

右之手形相渡し金子請取申候

同十二日

一金五両 滝谷町麦屋平七ニ貸申候、預り手形有
右之金子五左衛門方を預り候而平七ニ預ケ申候、手形有

同十三日

一御検見案内帳之義、各別之相違有之候ハ、鯖江を可被仰越候、無
左候ハ、仰越間敷候間、早々帳面仕候様ニと舟寄を沢右衛門様被
仰越候、御はいふ有

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

一御検見案内帳之義ニ付村々庄屋参候ニ付委細申渡、早々出来候様
ニと申付候

八月十九日

同廿日

一沢右衛門様を被仰越候ハ、来廿五六日時分ニ殿様御当著ニ候故、
廿三四日ニ為御向と舟寄へ御越可被成由、与下帳面之義被仰越候、
次ニ西谷村未進金今日切ニ相済申様ニと申付候、埒明不申候ハ、

入牢可被仰付候由被仰越候、西谷村へも御配符被遣候ニ付早々村
次ニ指越申候、御配符有、村々へ帳面之義尚又申越候、以上

同廿一日

同廿二日

一銀三匁九分三厘 西谷村を預り有

同廿三日

一金貳両銀拾壹匁七厘、西谷村申ノ御年貢金、喜八ニ為持鯖江指上
ル、并沢右衛門様へ案内帳之義書状を以申上候

同廿四日

一喜八鯖江を罷歸り候、沢右衛門御返状有

一御代官様為御迎沢右衛門様舟寄村迄御越被為成候ニ付、舟寄村へ
参候而検見案内帳之義段々承届罷歸り候

同廿五日

一村々庄屋中呼寄候而、右案内帳寄之次第右とハ相替り候段委細申
渡シ候、当月中右帳面出来候様ニと申渡候

同廿六日

一御代官様能州を当国へ御移りニ付、沢右衛門様・平助・庄右衛門

・拙者・権右衛門共二蓮ヶ浦茶屋二而御目見得、村々庄屋長(符)百
姓ハ嫁落二而御目見得仕罷歸り候、拙者共舟寄村迄御供仕、御檢
見御廻り村付坂井郡一所二仕、書付重而御役所へ指上候様ニと被
仰付候、当郡御檢見之義来十日ハ十五日迄之間可然と申上候

同廿七日

酉年御檢見御廻り村付

高百三拾九石式斗六升八合
御泊 前谷村 市兵衛

四町程

高六百式拾式石八斗三升
笹岡村 宗左衛門
市右衛門

拾五町程

川除御普請所

高四百七拾八石七斗三升
宮谷村 義兵衛

拾壹町程

高六百三拾式石四斗四升
青野木村 弥次(兵衛)

高五拾四石五斗五升
柿原西方寺村 権(兵衛)

拾八町程

高百七拾式石四斗壹升
清王村 九右衛門
権兵衛

貳拾町程

高貳百九拾四石六升九合
赤尾村 庄右衛門

壹里程

高百式拾四石五斗壹升
横垣村 次右衛門
高七百拾八石七斗四升
御休 井江葭村 長左衛門

七町程

高三百九拾七石四斗
国影村 次右衛門

拾町程

高貳百三拾七石七斗壹升
牛山村 二郎右衛門
弥兵衛

壹里程

高百式拾五石八斗
城村 舟津村へ貳拾町程
次郎右衛門

高六石四斗九合
新家 又左衛門

壹里拾町程

塩畑御普請所

舟津村へ三拾町程

高百九拾九石六斗七升
西谷村 五郎右衛門
次兵衛

三拾町程

溜池御ふしん所

高七百九石七斗四升八合
舟津村 弥次兵衛

八町程

高七百六拾九石九斗五升
十楽村 与三右衛門

八町程

高九百式拾式石八斗五升
御泊 田中々村 水圍御普請所
才兵衛

長兵衛

拾町程

高七百拾石式升

水圍御普請所

番田村

五兵衛

九町程

水圍御普請所

高七百壹石五斗

重義村

七郎兵衛

加右衛門

弥右衛門

谷畠村へ式拾五町程

水圍御普請所

右八平助方の一所ニ認指上可申由ニ而、平助方へ右書付遣し申候

八月廿八日

一番田村吉右衛門・弥右衛門出入相濟証文有之

同廿九日

一坂井郡中御検見御廻り村付書付、自分方の鯖江へ遣し候て織右衛門様迄指上候、うに壹樽者鯖江ニ而弥介預ケ置申候

同卅日

九月一日

同二日

同三日

九月四日

一村々御検見御廻り道筋并御検見案内帳(之)義二付村々へ罷出候

同五日

同六日

同七日

一村々庄屋中参候ニ付、御検見案内帳・合付等吟味仕様子聞候

一御代官様明後九日ニ大野郡の当郡へ御移被遊、後山村ニ御泊可被為成段聞候由、後山平助の被申越候

一 小検見斎藤久野右衛門様・佐藤代右衛門様大野郡の御越被遊、舟寄村善右衛門方ニ御泊り之由、後山平助方の申来り候ニ付、与下村々大検見・小検見共ニ近々御廻りニ候間、其心得仕候様ニと早々申触候

同八日

一 権右衛門舟寄へ遣し候へハ右御兩人様の被仰越候ハ、今晚上新庄(三)御泊り、九日ニ玄女村ニ御泊り、十日後山ニ御泊り、十一日前谷組へ御移り可被遊由被仰越候

一 銀式拾四匁 前谷村清右衛門福居買物代銀ニ遣し申候
九月九日
一 銀三匁 丸岡買物代、前谷二郎兵衛
同十日(マ) 一 銀 同断前谷清右衛門

同九日

一御代官様大野郡の後山村へ御著、山窪村迄罷出御目見得仕罷帰り候

織右衛門様御供二而

一小検見御兩人様玄女村ニ御泊之由

同十日

一後山組下村々御検見被遊清間村の前谷へ御移、御検見被遊私宅へ御入被遊御泊り二候、御飯米代・木銭共銀拾四匁六分七厘、并御昼食代四匁八分、御買物代銭三拾七文、請取判形仕指上候

同十一日

一前谷村の御出被遊、笹岡・宮谷・青野木・西方寺・清王・赤尾・井江葎村山ニ而御昼休、横垣・井江葎・国影・牛山・舟津・十楽・田中々村并宮前村川筋掘替願之場所、十楽村水圍堤御廻り御検分二而、田中々村才兵衛方へ御入被成候、右赤尾村御検見之処道筋之田不残刈取候二付、段々御吟味之上、拙者迄も無調法之由被仰聞候

一右御兩人小検見衆村の前谷村へ御越候而、笹岡・伊井・清間・宮谷・青野木・西方寺・清王村九右衛門方ニ御泊り被成候

同十二日

一田中々村御出被遊、番田・重義御検見相濟、中番村渡舟の谷畠村

へ御移り、舟寄組御廻り、舟寄村宗右衛門方ニ御泊り、田中々村の御送り之馬人足舟寄組の罷出候、拙者右渡舟ニ而御暇乞申上、

小検見衆御越被成候二付井江葎村へ参候

一小検見御兩人様清王村の御出被成、赤尾・横垣・井江葎ニ而御昼休被成候而、国影・「」城村御泊り

九月十三日

一右御兩人様城村御出、西谷・舟津・田中々村御昼休、番田・重義・十楽村御泊りニ被成候

同十四日

一右御兩人様十楽村の谷畠村へ御越候
一右大検見・小検見共ニ御用馬人足、高下無之様ニ組下村々へ割付遣候而、重而無算用之定ニ候故遣捨二仕、帳面ニ記置不申候

同十五日

同十六日

(徳川頼職・紀州藩主)
一徳川内蔵頭様去八日御逝去ニ候間、在々鳴物可致停止旨可被申渡候、以上

西九月十六日

佐藤代右衛門印

宮田武右衛門印

山本沢右衛門印

齋藤久野右衛門印

前谷村大庄屋二郎左衛門殿

右之御書付後山村の村次ニ而相届候ニ付、早々組下村々へ配符ニ而申遣し候

同十七日

一御代官様十二日舟寄村御泊、十三日今立郡下新庄村平左衛門方ニ式御泊り、十五日・十六日戸口中村弥左衛門方ニ式御泊り、今日鯖江へ御入之由

同十八日

同十九日

一去年之通村々小百姓御年貢取立帖・同通・諸役割元帳・同通四通共ニ早々仕立、指出し申様ニと申渡し候

一御用之儀有之候間明後廿一日各可被罷越候、以上

九月十九日

杉山織右衛門印

坂井郡大庄屋三人名付

右之御配符後山村の村次ニ参候

同廿日

一銀拾匁式分 前谷村

一銀三拾匁

一四拾匁式分

内拾式匁二郎左衛門分引

残

式拾八匁式分市兵衛も請取

同廿一日

一舟寄村善右衛門・後山村平助・拙者共ニ鯖江へ参候

同廿二日

一宮谷村利右衛門屋敷替仕、野中へ家を立罷出候事、拙者方へ相断候哉と御尋ニ候へ共、与次右衛門村ニ罷有候内色々悪口申ニ付欠落仕候へハ、自然立帰り火を付可申事も難斗候へハ、村外へ屋敷替仕候様ニと村人申ニ付、屋敷之かへ仕度と申候由ハ物語ニ而承候得共、ケ様ニ屋敷かへ之義ハ何之無断不承候由、口上書指上申候

一拙者并善右衛門・平助共ニ御陣屋へ被召出候而、織右衛門様・沢

右衛門様を以被仰渡候ハ、拙者義大庄屋役不相応ニ被思召候ニ付、

被召上候由被仰聞奉罷立候

右拙者役義元禄七年戌ノ八月廿六日ニ五味小左衛門様を被仰付相勤

申候、事ニ有本末、物ニ始終あり、被仰付人有、又被召上人有、是時節到来、非他事ニ、以自分家を治事、是第一之観楽^(歎)

以上